

靈山と北畠顕家卿の年譜

◆青字=靈山の主なできごと

※南北朝時代の年号は(南朝方/北朝方)の順

平安時代

859
(貞観元)

天台宗の僧、慈覚大師円仁が靈山を開山する

869
(貞観11)

陸奥国東方沖を震源とした貞観地震が発生する

鎌倉時代

1189
(文治5)

奥州合戦が起こる

関係のある伊達氏

政宗ダテニクル



政宗ダテニクル



1192
(建久3)

征夷大將軍 源頼朝、
鎌倉幕府を開く

1318
(文保2)

北畠顕家、京に生まれる

1324
(正中元)

後醍醐天皇による倒幕計画が発覚、関係者が処分される(正中の変)

1331
(元弘元/元徳3)

後醍醐天皇、再度倒幕計画を企てるが失敗、翌年に隠岐島へ流される(元弘の乱)

1333
(元弘3/正慶2)

鎌倉幕府が滅亡、後醍醐天皇が政権を握る(建武の新政)

顕家、陸奥守に任命され多賀城へ下向

政宗ダテニクル



1335
(建武2)

顕家、鎮守府將軍を兼任。後醍醐天皇に背いた足利尊氏を討つため出陣する

1336
(延元元/建武3)

1月 顕家勢、京都の尊氏勢を破る
3月 顕家、鎮守府大將軍の称号を得て奥州へ戻る
8月 尊氏、北朝を立てる
11月 尊氏、「建武式目」を制定し室町幕府を樹立
12月 後醍醐天皇、吉野へ逃れ南朝を立てる

1337
(延元2/建武4)

1月 顕家、国府を多賀城から靈山に移す
5月 北朝方の靈山攻めが始まる
8月 顕家、尊氏を討つため再度出陣する

1338
(延元3/建武5)

5月 顕家、和泉国石津にて戦死する

1339
(延元4/暦応2)

顕家の父・親房、南朝の正統性を主張する「神皇正統記」を執筆する
後醍醐天皇崩御。義良親王が後村上天皇として即位する

1347
(正平2/貞和3)

靈山城が落城する

1351
(正平6/観応2)

顕家の弟・顕信、観応の擾乱(足利尊氏と弟・直義の争い)に乗じて一時的に多賀国府を奪還する

1353
(正平8/文和2)

顕信が守る宇津峰城が落城、南北朝の戦いが事実上終結する

1392
(元中9/明徳3)

足利義満の主導で南北朝が合一する

政宗ダテニクル



1401
(応永8)

伊達氏が靈山寺を再興するが、50~60年ほどで火災により焼失

1467
(応仁元)

応仁の乱が起こる

室町時代

江戸

明治

昭和

1640
(寛永17)

靈山寺、寛永寺末寺として現在の場所に復興する

1881
(明治14)

北畠顕家をはじめとする北畠一族を祀った靈山神社が創建される

1934
(昭和9)

5月1日、「靈山」が国の史跡および名勝に指定される